

研究テーマ：自動車部品産業の国際展開に伴う経営人材育成プログラム		
研究者（職氏名）：経営情報学部教授	小見志郎	所属：経営情報学部経営学科

1. 広島県企業の海外進出状況

自動車部品をはじめ広島からの中堅企業の海外進出が旺盛である。広島県内に本社を置く企業の海外進出状況をみると、延べ364事業所に達しており、大半が製造業である。広島県の製造業は13,300社であるから、海外進出している企業は県内企業のわずか2.2%にすぎない。自動車関連は65事業所である。マツダの海外展開に追随した部品産業の海外進出が多い。

2. 中堅企業の国際経営における人材養成の視点

急速に進む企業の海外進出において、国際経営を担う人材が企業内で育ってきているかが問われている。これからの企業経営は否応なしにグローバル経営に直結することから、国際経営を担う人材の養成は喫緊の課題である。自動車部品産業におけるTier1企業など中堅企業では、国際経営を担う人材として、リーダーシップの発揮、日本本社組織文化の継承、事業リスクのグローバルな分散などが期待されているが、経営トップ層は、海外事業を注意深く見守りながらも、現地判断を尊重していることが伺われる。これは、経営学では、**判断容易性の条件**に相当する。すなわち、「個々の従業員がある事態に直面したとき、その企業文化に従えば経営者と同一方向での判断を自らの判断で容易にできる」というものである。

3. 大学等による人材養成プログラムへのニーズ

広島の中堅企業からみた大学等による人材養成へのニーズを探るため、「グローバル経営時代の人材養成ニーズ調査」というアンケート調査を実施した（2007年3月実施）。対象は、海外進出に実績のある企業と今後可能性のあるTier1, Tier2にある自動車部品メーカー217社である。有効回収は81社（37.3%）であった。回答者は人事担当役員・部長である。

大学等に期待する人材養成プログラムは、「組織の活力を高めるリーダーシップ研修」が最も多く望まれている（58.0%）。次いで、経営戦略など科学的にアプローチするマネジメント実務研修と最新技術動向や生産システムの動向把握などの技術系の研修である。いずれも18.8%である。リーダーシップ研修が際立っているのは、中堅社員層や管理職の研修などが望まれているからである。また、マネジメント系の教育研修プログラムについてのニーズでは、「品質管理やリスクマネジメント」が最も多く（52.2%）、次いで「業務革新ノウハウや経営戦略」が47.8%である。いずれも業務に直結した実務型の研修への期待があるからである。

4. 判断容易性を組織的に高める人材養成プログラム

中堅企業の国際経営においては、判断容易性の条件を組織的に学習していくことが求められている。そのような組織学習は、職場での品質管理活動やリスクマネジメントを通じて日常的に培われていくことが重要である。その代表的なものがトヨタ生産方式にあることはよく知られたことである。しかし、中堅企業にとっては、競争環境が激化し企業統治が今まで以上に求められるようになっていく中、リスクマネジメントを組織的に導入する余力がないのが実情である。このため、大学等に人材養成の機会提供を求めてきているのであって、履修プログラムのなかで品質管理・リスクマネジメント、業務革新に高いニーズがあることがそれを裏付けている。とりわけ、ワークショップスタイルでの履修プログラムに大きな期待があるように、新しい履修プログラムの開発・提供が求められている。